

単 価 契 約 書 (案)

- 1 契約物品名 別記のとおり
- 2 契約単価 別記のとおり
- 3 契約期間 契約締結日から令和9年3月31日まで
- 4 契約保証金

上記について愛媛県産業技術研究所長を甲とし、 を乙として、乙が契約物品を甲に供給し、甲が買い受けることについて、次の条項により契約を締結する。

(納入方法等)

- 第1条 乙は、頭書の定めにより、別記の品質及び規格の物品を、甲の発注あるごとに、速やかに甲の指定する場所に納入しなければならない。
- 2 この契約の締結に要する費用その他この契約に関する一切の費用は、すべて乙の負担とする。

(納入の終了通知)

- 第2条 乙は、物品を納入したときは、直ちに、納品書を甲に提出しなければならない。

(検査)

- 第3条 甲は、前条の規定により納品書の提出があったときは、直ちに検査を行うものとする。
- 2 乙は、前項の検査に立ち会うものとし、これに立ち会わなかったときは、検査の結果について、甲に対して異議を申し立てることができない。
- 3 検査に直接必要な費用及び検査のために消耗、変質又はき損した物品に係る一切の損失は、すべて乙の負担とする。

(修補又は交換等)

- 第4条 乙は、納入した物品の全部又は一部が前条第1項の検査に合格しないときは、修補又は交換により、速やかに良品を納入しなければならない。
- 2 前項の規定により修補又は交換による良品の納入が完了したときは、直ちに、納品書を甲に提出しなければならない。
- 3 前項の規定により納品書の提出があったときは、第3条の規定を準用する。

(品質検査)

- 第5条 乙が納入する物品の品質等について、甲が必要と認めたときは、乙は、石油販売元の成績書等を甲に提出し、あるいは、甲の立会いのもとに試験検査に応じなければならない。この場合に要する費用の一切は、すべて乙の負担とする。

(所有権の移転等)

- 第6条 物品の所有権は、検査に合格したときをもって、乙から甲に移転するものとする。
- 2 前項に規定する所有権移転の前に生じた物品についての一切の損害は、すべて乙の負担とする。ただし、甲の故意又は過失により生じた損害については、甲の負担とする。

(代金の支払)

第7条 乙は、毎月、前月中に納入した分について納品書を取りまとめ、甲の定める納品明細書及び請求書とともに甲に提出するものとする。ただし、受領印、給油年月日及び給油店名の記入のない納品書は、受理しないものとする。

- 2 毎月の請求金額は、納品ごとに契約単価に納入した数量を乗じて計算した額の円未満の端数を切り捨てた額を、加算したものとする。
- 3 甲は、請求書を受領した日から起算して30日（以下「約定期間」という。）以内に乙に代金を支払わなければならない。
- 4 甲は、請求書を受領した後、その内容の全部又は一部が不当であることを発見したときは、その理由を明示してこれを乙へ返付するものとする。この場合において、当該請求書を返付した日から甲が乙から是正した請求書を受領する日までの期間は、約定期間に算入しないものとする。ただし、その請求書の内容の不当が乙の故意又は重大な過失による場合は、請求書の提出がなかったものとする。

(支払の遅延)

第8条 甲は、その責めに帰すべき理由により、約定期間内に代金を支払わなかったときは、その支払期限の翌日から支払の日までの日数に応じ、支払期限の翌日時点における政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の規定に基づく遅延利息の率を乗じて計算した額の遅延利息を乙に支払うものとする。ただし、その額が百円未満であるときは、その全額を切り捨てるものとし、また、その額に百円未満の端数がある時は、その端数の金額を切り捨てるものとする。

(代理受領の禁止)

第9条 乙は、代金の受領を第三者に委任してはならない。

(権利の譲渡等)

第10条 乙は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は担保に供してはならない。ただし、権利にあつては、書面により甲の承認を得たときはこの限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、乙は、信用保証協会及び中小企業信用保険法施行令（昭和25年政令第350号）第1条の3に規定する金融機関に対し売掛金債権を譲渡することができる。
- 3 前項の規定に基づき売掛金債権の譲渡を行った場合において当該譲渡の通知を受けるまでにした甲の弁済の効力は、愛媛県会計規則（昭和45年愛媛県規則第18号）の規定に基づき出納長が指定金融機関又は指定代理金融機関に支払指示を行ったときに生ずるものとする。

(契約不適合責任)

第11条 甲は、引き渡された物品が品質及び規格に関して契約の内容に適合しないもの（以下、「契約不適合」という。）であるときは、乙に対し、当該物品の修補又は代替物の引渡しによる履行の追完を請求することができる。

2 甲は、前項に規定する場合において、相当の期間を定めて履行の追完の催告をしたにもかかわらず、その期間内に履行の追完がないときは、その不適合の程度に応じて代金の減額を請求することができる。ただし、次号のいずれかに該当する場合は催告をすることなく、直ちに代金の減額を請求することができる。

- (1) 履行の追完が不能であるとき。
- (2) 乙が履行の追完を拒絶する意思を明確に表示したとき。

- (3) 契約の性質又は当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行をしなければ契約をした目的を達することができない場合において、乙が履行の追完をしないでその時期を経過したとき。
- (4) 前3号に掲げる場合のほか、甲が前項の催告をしても履行の追完を受ける見込みがないことが明らかであるとき。

(納入期限の延長)

第12条 乙は、納入期限までに物品を納入することができないときは、遅滞なくその理由を詳記して、納入期限の延長を願い出なければならない。この場合において、その理由が乙の責めに帰することができないものであるときは、甲は、相当と認める日数の延長を認めることができる。

(契約物品の納入遅延)

第13条 乙は、自己の責めに帰すべき理由により納入期限までに物品を納入することができなかったときは、納入期限の翌日から合格品を完納する日までの日数に応じ、契約単価に延滞物品の数量を乗じた額に年3パーセントの割合を乗じて計算した額を、遅延損害金として甲に支払わなければならない。

(契約保証金の返還等)

第14条 乙は、契約保証金を納付している場合において、第6条の規定により物品の所有権を移転したときは、甲に契約保証金返還請求書を提出するものとする。

- 2 甲は、前項に規定する返還請求書を受領したときは、その日から30日以内に契約保証金を乙に返還するものとする。
- 3 契約保証金には、利息を付さないものとする。

(甲の解除権)

第15条 甲は、乙がこの契約に定める義務を履行しない場合において、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約を解除することができる。

- 2 甲は、次の各号いずれかに該当する場合は、前項の催告をすることなくこの契約の全部又は一部を解除することができる。
 - (1) 乙から契約の解除願の提出があったとき。
 - (2) 乙が納入期限内に契約の履行をしないとき、又は履行する見込みがないと甲が認めるとき。
 - (3) 乙又はその代理人若しくは使用人が、正当な理由なく、甲が行う検査の実施に当たり甲の指示に従わないとき、又はその職務の執行を妨害したとき。
 - (4) 乙又は乙の代表役員等、一般役員等若しくは経営に事実上参加し若しくは実質的に経営を支配している者が、暴力団関係者（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団の関係者をいい、愛媛県暴力団排除条例第2条第3号に規定する暴力団員等を含む。）であると認められるとき。
- 3 甲は、第1項又は前項の規定により契約を解除したときは、解除した日の属する月の前月までに納入したものに対する代価をその期間の月数で除して得た1ヵ月平均額に解除後の月数を乗じて得た金額の10分の1を違約金として乙から徴収するものとする。この場合において、乙が契約保証金を納付しているときは、契約保証金を違約金に充当するものとする。
- 4 乙は、第1項又は第2項の規定により甲が契約を解除したときは、これにより被った損害

について、甲にその賠償を求めることができない。

(乙の解除権)

第16条 乙は、甲がこの契約に定める義務を履行しない場合において、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約を解除することができる。

(事情変更による契約の変更)

第17条 契約締結後において、天災地変その他の不測の事情に基づく経済情勢の激変により契約内容が著しく不相当と認められるにいたったときは、その実情に応じ、甲乙協議して、書面により契約単価、その他の契約内容を変更することができる。

(その他)

第18条 この契約に定めのない事項については、愛媛県会計規則及び遅延防止法によるもののほか、甲乙協議して定めるものとする。

2 災害時における自動車等の燃料の調達に関する協定に基づくものについては、本契約から除くものとする。

この契約の証として、書面又は電磁的記録にて本書を作成する。書面にて作成する場合には、本書2通を作成し甲乙記名押印のうえ、各自1通を保有する。電磁的記録にて契約書を作成する場合には、甲及び乙がそれぞれ電子署名を行い、各自が保存する。

令和8年 月 日

住所 松山市久米窪田町487番地2
甲 氏名 愛媛県産業技術研究所
所長 菊地 敏夫

住所
乙 氏名

別 記

1 契約物品の内訳

品 名	品質・規格	単位	単 価	左記単価中の 消費税及び地 方消費税の額
白灯油	1号灯油 (日本工業規格適合)	1リットル	. 円	. 円

(注) 上記単価は、消費税及び地方消費税相当分を含む。

2 その他の附帯条件

納品先は愛媛県産業技術研究所紙産業技術センター(四国中央市妻鳥町乙127)とする。